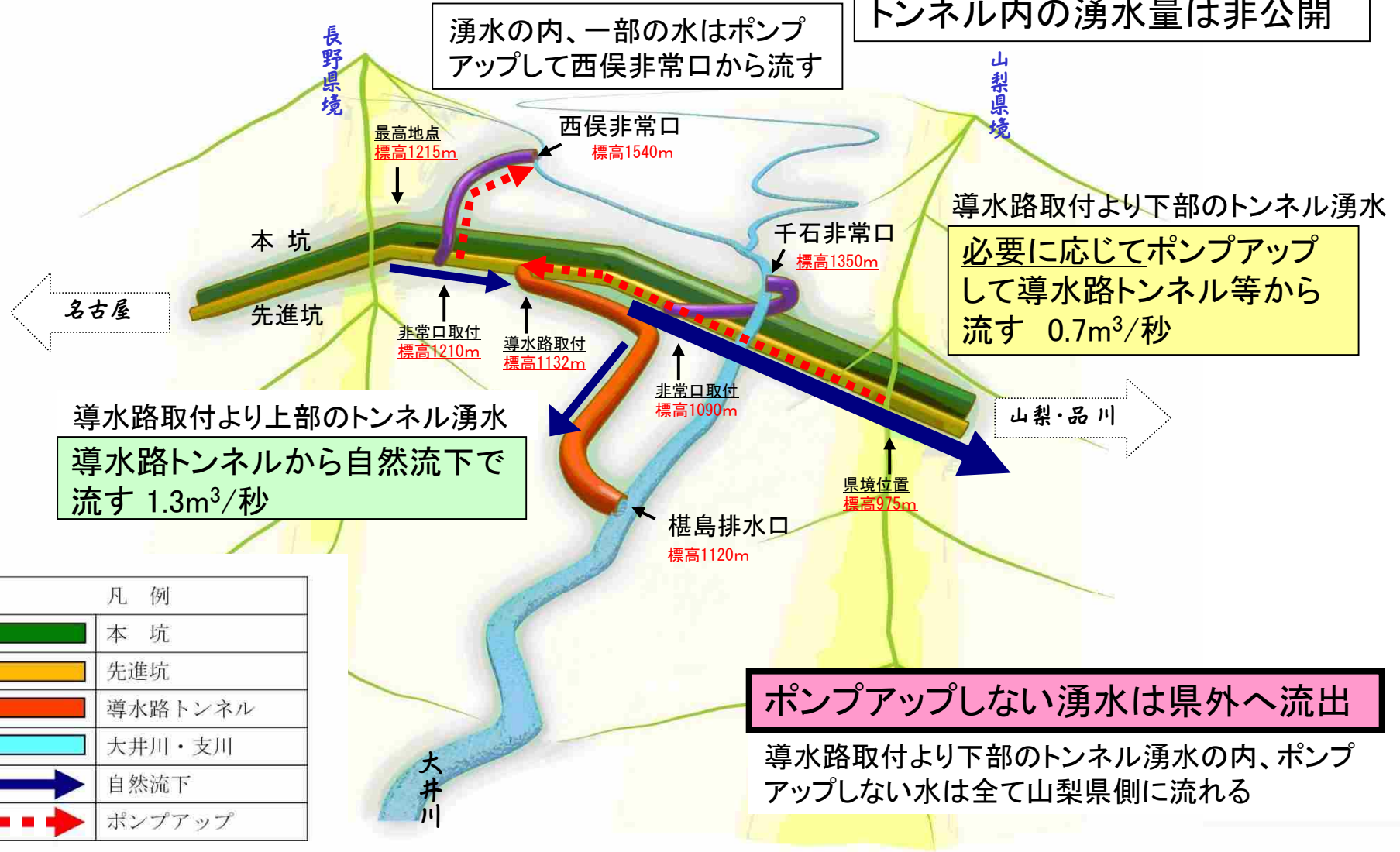


# 中央新幹線関係施設の位置関係と大井川水系の水資源への影響

対策をしない場合：トンネル建設に伴う大井川の減少流量 約 $2\text{m}^3/\text{秒}$  (JR東海推定)

トンネル内の湧水量は非公開



※本坑、先進坑の工事中はトンネル湧水は全量ポンプアップ等で大井川に流す

# 大井川流量減少の影響と知事意見

大井川の利水は、井川ダムと畑薙第一ダムを水源としているが、両ダムは年間を通じて満水になることはほとんどない。

水が足りない大井川

大井川の流量が減少すると、節水対策の実施頻度や期間を増加させる。

さらに水不足に

〔節水対策の実績日数と試算日数の比較〕

年 度	H25	H26	H27	H28	H29
節水対策日数(実績)	60	—	—	35	97
<b>試算結果の日数</b>	<b>112</b>	<b>8</b>	<b>15</b>	<b>77</b>	<b>134</b>

流域住民に  
大きな影響

※試算：流量が $0.7 \text{ m}^3/\text{s}$ (JR東海予測値)減少した場合。  
節水対策日数が約2倍に増加。

中央新幹線事後調査報告書に関する  
知事意見（平成29年4月3日）

- トンネル湧水の全量を恒久的かつ確実に大井川に戻すことの早期表明
- 大井川下流利水者との流量減少対策に関する基本協定締結